

⑩木津神観音踊り

観音踊りと夏の夕べ実行委員会 大高 百代

木津の長谷寺にお祭りされているご本尊は十一面観音菩薩です。縁日は、毎月17日と18日ですがこれとは別に7月9日と10日参詣した者は、この1日で四万八千日参詣したのと同じ功德があるといわれています。この踊りの始まりは、庶民文化が発達した江戸中期ではないかと思われます。旧暦7月9日夜、新精霊のあった家では盆灯籠を持参して観音堂の軒に吊るし、室内では観音経が読経され供養します。境内では盆踊りの櫓が組まれ、音頭出しと三味線弾きが上がり、周りでは善男善女が音頭に合わせ踊ったものが、祖先を供養する精霊踊りとして今日に伝えられています。時代の変遷とともに衰退しつつありましたが、平成8年より木津神地区自治振興会が主幹となり「観音踊りと夏の夕べ」として活気を取り戻しております。今日は里浦廻り踊り保存会の協力を得て踊ります。



⑫袋井音頭 ほか

鳴門市婦人連合会 会長 矢野 壽美子

鳴門市婦人連合会は、「まちづくり」の原動力は婦人会との意識のもと、ふるさとに誇りと愛情をもち、時代の潮流を速やかに感じ行動することを目指し、会員が力をあわせ、市内全域に組織的な活動を展開しています。多方面にわたる活動を、組織強化・男女共同参画社会推進・文化・生活・福祉・広報の6専門部の分野に分けて、多彩な事業を実施しています。また、市内の各地域婦人会では、男性も青少年も巻き込み、人間関係や信頼関係を育てながら、地域の特性に応じた魅力的な活動を活発に行っています。毎年、鳴門のまつりには「賄い担当」で参加・協力しております。そしてまつりのこの舞台にも、婦人会のみなさんの力を合わせて、華麗に、元気に、しなやかに「袋井音頭」と「仲良しシャンシャン」を踊ります。応援よろしくをお願いします。



⑪櫛木獅子舞

櫛木獅子舞保存会 世話人 伊藤 学

鳴門市北灘町櫛木の郷土無形民俗文化財である「櫛木獅子舞」は、獅子を権現(神の仮の姿)と崇め、獅子によって祈禱して、五穀豊穡、大漁、無病息災、厄除けを祈願する奉納獅子舞です。櫛木総代会、神社氏子の協力のもと「櫛木獅子舞保存会」によって継承されています。そしてその櫛木獅子舞は、櫛木八幡神社、櫛木妙見神社の秋の大祭、11月3日に、村内を古式豊かに舞めぐります。櫛木獅子舞の特徴は、「キレの良さ」と「勇壮さ」です。獅子の白い紙飾りは、神主さんが振ってくれる御幣(ごへい)と同じです。私たちは、獅子舞を囲んでくださる方に御利益がたくさんかかるようにと、激しく獅子頭を振ります。それも櫛木獅子舞の特徴の一部です。



⑬阿波踊り

鳴西連 連長 長山 隆彦

阿波踊り「鳴西連」は、1988年(昭和63年)「阿波踊りを楽しむ会」として設立し、活動拠点を鳴門市鳴門町の鳴門西小学校校区としています。設立の目的は、左義長(年始め行事)、秋祭りなどとあわせて、地域の子どもの居場所づくり、地域の活性化活動の一環としております。3才から小学校6年生までの子ども中心の阿波踊り連として、鳴り物と指導は大人が行っています。1993年「鳴西連」として正式に発足しました。近年は、中学生も鳴り物や高張などで参加し、子どもたちの踊りを盛り上げてくれています。8月の阿波踊り期間の出演や8月15日の地域の夏祭りへの参加、鳴門市選抜阿波踊りへのゲスト出演、南海病院や鳴門病院への訪問など、元気いっぱい阿波踊りを楽しんでいます。



～鳴門市市制施行70周年記念事業～

第16回鳴門のまつり 出演団体紹介



10:00～ オープニングセレモニー
70周年記念イベント(もちなげ)
(予定時間) (演目)

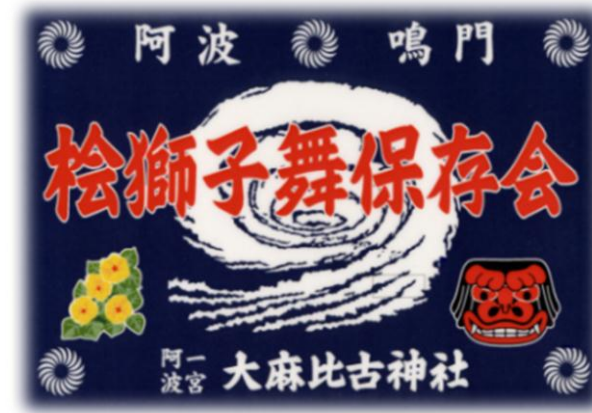
- 10:30～ ① 鳴門渦潮太鼓
- 10:45～ ② 桧獅子舞
- 11:00～ ③ 池谷神踊り
- 11:15～ ④ 高島子ども御輿・黒崎子ども御輿
- 11:30～ ⑤ 鳴門小唄
- 11:50～ 太極拳を楽しむパンダの会
高瀬豊子さん
自衛隊善通寺十五聯太鼓
ゆるキャラと「どうぶつたいそう」を踊ろう!
- 12:50～ ⑥ エイサー
- 13:10～ ⑦ 宿毛谷獅子舞
- 13:25～ ⑧ 里浦廻り踊り
- 13:40～ ⑨ 大谷甘酒まつり・大谷獅子舞
- 13:55～ ⑩ 木津神観音踊り
- 14:10～ ⑪ 櫛木獅子舞
- 14:25～ ⑫ 袋井音頭 ほか
- 14:40～ ⑬ 阿波踊り
- 14:55～ 閉会 ～お楽しみ抽選会～



②桧獅子舞

桧獅子舞保存会 会長 志宇知 正美

「桧獅子舞」は別名夫婦(めおと)獅子ともいわれ二匹の獅子が五つの舞(ねりこみ・てれつく・しんぎょく・きつね・のた)を、ストーリーのもと幼稚園児演ずるチョウコに誘き出され小太鼓(カンコ)小学五年生、大太鼓(タイコ)小学二年生の太鼓のリズムで舞います。近郊近在では最も古く400年余りの伝統を持ち、農作物の豊作、家内安全を祈願し「阿波一の宮 大麻比古神社」に奉納した事が始まりです。第一次世界大戦時には、俘虜収容所を慰問したと伝えられています。今日では、130人の会員があり地元桧氏神祭り・大麻比古神社例大祭・小学校等や福祉施設慰問、ドイツフェストなど各種イベントにも参加しています。また、2013年(平成25年)、20年に1度行われる第62回伊勢神宮の式年遷宮で奉納しました。地域の伝統ある「桧獅子舞」をこれからも引き継いで保存していきたいと思っています。



①鳴門渦潮太鼓

鳴門渦潮太鼓 代表 元木 克宣

1981年(昭和56年)、当時の地域性のある新しい郷土芸能で、広く郷土の心と文化を伝承したいと考え、結成されました。鳴門の渦潮をテーマとして、さらには阿波おどりのリズムを織り込んだ組曲《鳴門》になっています。活動は県内外で、各種イベント・会合における余興への出演、お呼びがかかれば遠くは長崎県のハウステンボスでの演奏、地域におけるテレビコマーシャルの出演など、幅広く演奏活動をしています。現在、9人のメンバーでがんばっています。太鼓に興味のある方、爽快な気分を味わってみたい方など、一緒に太鼓をたたくてみませんか。学生から主婦、中年の方、広く募集しています。詳しくは、088-685-8700(元木)までご連絡ください。



③池谷神踊り

池谷神踊り保存会 会長 柳 富夫

神踊りは徳島県下にしか伝承されていない風流踊りの一種で、地区の平和や安全、五穀豊穡、新仏の供養、先祖の慰霊や昔農事に必要な牛馬の御祈禱を目的に踊られ、地区の神社及び寺院でも踊るという特徴をもっています。現在この踊りは池谷地区の男衆17人で構成され、8月15日の早朝より地区の2神社及び2寺院で踊りを奉納しています。踊りは、太鼓打ち、音だし、踊り子で構成され江戸時代の歌謡の系譜を継いでいます。この神踊りは、村の繁栄と平和を願って白装束に黒帯、白すきんで身をつつみ、ゆっくりと踊り、現代人には一種の異常さを感じますが静寂さもたまたまです。これからも、池谷地区の伝承文化を通じて地域の活性化を図っていききたいと思っています。



④高島子ども御輿

高島秋祭り実行委員長 池内 誠
高島子ども御輿会代表 恵美 純子

高島地区は、塩田の町として栄え、秋祭りも、御神輿の他に地区ごとに屋台が7台あり、盛大に行われることで有名でした。

1955年頃から製塩法が変わり、人口も減少、秋祭りも次第に廃れ、このままなくなるかと思われました。

1982年に有志が集まり、子どもたちを中心に「創作たる御輿」を作り、町内を練り歩き、老人ホームを訪問するなど、大変喜ばれました。

1986年には、ジャスコから子ども用の御輿、1993年には、宝くじ協会から大人用の御神輿、その他にも、創作子ども屋台を3台、たる御輿、ちょうちん御輿を揃え、昔の屋台（牡丹）を寄贈等で復元することができました。幼稚園の創作みこしも登場し、町内を元気よく練り歩いています。

高島の秋まつりは、毎年10月の第2日曜日。子ども達にとって思い出深い故郷のまつりになるよう、大切に守っていきたい行事です。



⑤鳴門小唄

「鳴門小唄」でいきいきなると実行委員会
櫻田 桂子

「鳴門小唄」は、昭和11年2月8日に、日本三大童謡詩人といわれる野口雨情が鳴門を訪れ、鳴門の美しい風景や豪快な渦潮に感動して書き残した詩です。

平成18年に、この「鳴門小唄」を鳴門市の文化財として後世に遺すため、雨情来鳴70周年を記念して、国立公園鳴門に「野口雨情歌碑」が建立されました。また、新たに作曲・振付された「鳴門小唄」も披露されました。

平成21年には、この「鳴門小唄」の歌や踊りを市民に広め、明るくいきいきとした楽しいまちづくりをめざして、「鳴門小唄でいきいきなると」実行委員会が立ち上がりました。

誰でもすぐ覚えられる楽しい鳴門市民の踊りとして親しまれますように、市内のいろんなイベントに参加し、普及に努めています。

また、この踊りが次世代にまで引き継がれる伝承芸能となりますように、市内の小・中学生にも踊ってもらっています。ご来場の皆さん、と一緒に踊りましょう。



④黒崎子ども御輿

黒崎祭り保存会 会長 秋岡 芳郎

黒崎地区では、毎年10月の体育の日に「黒崎っ子花まつり」を、黒崎地区自治振興会・黒崎地区社会福祉協議会が主催し、新しい地域のまつりとして「黒崎花広場」で実施しています。今年も、10月9日に14回目が行われ、千人近くの人の参加がありました。

その祭りには、市内最大級の「祭りたいこ屋台「丸大」」や「小ぶりの屋台「丸山」」そして「子ども屋台「雁金」」を出し、塩釜神社のお御輿も出演して盛り上がります。

一昨年には、宝くじの助成金を頂いて「子ども御輿」を新調いたしました。黒崎では、黒崎小学校から北側が「塩釜神社」、南側は「宇佐八幡神社」の祭りとなります。この子ども御輿の屋根の前側には塩釜神社、反対側に宇佐八幡神社のマークが付けられています。今年も10月9日に塩釜神社、10月15日には宇佐八幡神社の秋祭り宮立ちに参加して、喜んでいただきました。

みなさま、ご支援をよろしくお願いいたします。



⑥エイサー

四国大学沖縄県人会 会長 宇良 樹希

ハイサイ！グスーヨーチューカナピラ！（こんにちは！みなさん元気ですか？）四国大学沖縄県人会です。沖縄出身の生徒が四国大学で出会い結成されたグループです。

私たちは、お祭りや施設・学園祭を活動の中心とし沖縄の伝統芸能である【エイサー】を踊っています。

エイサーはお盆の先祖供養やお祝い事など様々な場所で踊られています。地域や団体によって踊りや選曲も異なり、見ている人を楽しませてくれます。

エイサーは、若者からおじいーやおばあーまで楽しむことのできる伝統芸能で、太鼓の音が聞こえたら夏がきた〜！と誰もが心踊らされます。これを沖縄ではワクワク&ドキドキという意味で『チムドンドン』と表現します。

男踊りは勇ましく！女踊りはしなやかに！今日は鳴門のまつりで琉球の風を吹かせます！

ご覧クイミソーレー！（どうぞご覧ください！）



⑦宿毛谷獅子舞

宿毛谷獅子舞保存会 代表 近藤 章浩

北灘町宿毛谷地区に何百年も伝わる獅子舞は、他に類を見ない「暴れ獅子」です。勇壮な獅子の舞いと、子どもの太鼓打ちのかわいらしさとのギャップも魅力で、多くのファンに喜ばれています。

拍子木の合図で、眠っていた雌・雄一対の獅子は起き上がり、太鼓のリズムに合わせて舞い踊り、拍子木の合図でまた眠ります。本日は、太鼓を打ち鳴らしながら神社の参道を進んでいく「練り込み」と、獅子が舞う5曲、子ども2人が演じる「まわし打ち」をご披露いたします。

毎年11月4日には宿毛谷・大浦地区、5日には粟田地区の氏子の家々をまわって厄除けをし、葛城神社参道を練り込み、境内で獅子舞を奉納しています。

11月5日には、目の神様「葛城神社」の例大祭に奉納しています。ぜひご覧ください。

一生懸命演舞いたしますとともに、この伝統芸能を末永く存続していくよう努めてまいります。



⑨大谷甘酒祭り

大谷甘酒祭り保存会 会長 近藤 幸祐

古昔、宇志比古神社の鎮守する大麻町大谷を含む旧名、堀江村は京都石清水八幡宮の荘園でありました。ゆえに当神社は氏子13ヶ町村の鎮守の神様として大谷の八幡さんと称され昭和30年代前半まで盛大な秋祭りが行われてまいりました。氏子の中より選ばれた通称、瓶元（かめもと）と呼ばれる頭家（とうや）の代表が、その年の新米で醸した白酒（しろぎ）、黒酒（くろぎ）を神様に奉納する「甘酒祭り」は概ね現在も踏襲され平成14年に当神社本殿が国指定重要文化財の指定を受けたのを機に「甘酒祭り保存会」を結成し大谷町内会及び大谷婦人会の協力をもって現在に至っています。その甘酒を御神輿とともに行列をなしてお旅所まで練り歩き祭典の後参拝者に振る舞うのを習わしとしております。この誇りある大谷の伝統文化としての「甘酒祭り」を再認識し、世代を越えた心の町づくりを図っております。



⑧里浦廻り踊り

里浦廻り踊り保存会 小林 弘明

里浦の廻り踊りのはじまりは、その年に亡くなられた新仏さんと御先祖様の供養のために行われた精霊踊りです。この踊りは、およそ120年ぐらいと推測されています。綿々と庶民に受け継がれてきた、「歴史と伝統のある廻り踊りを守ろう」と、里浦地区自治振興会文化部が運営主体となり「廻り踊り保存会」の活性化に取り組んでいます。

毎年8月17日には、里浦集会所横の広場でやぐらを組み、音頭にあわせ太鼓や三味線を弾き大勢で廻り踊りを踊ります。8月23日には南集会所前の広場で、地藏盆踊りを踊り続けていますが時代の流れと共に、鳴り物の担い手や踊り手も少なくなり、後継者を育てていくことが大きな課題ですが、こうした中、毎年子ども会からの参加者が増えて大きな喜びになっています。

先人が残した伝統芸能を、後世へ伝承していくため、皆様方の温かいご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



⑨大谷獅子舞

大谷郷土文化保存会 会長 信田 幸信

大谷獅子舞は、鳴門市大麻町の大谷焼の里に伝承されてきた獅子舞で、創立は江戸中期頃といわれております。大谷の山林所有者たちが集まって「山神講」という相互扶助の信仰団体を結成し、その人々たちによって守られてきました。

徳島県でも独特の獅子の舞い方・形態・太鼓のリズムであり、一番の特徴は演技中頃の子ども2人による手拍子、その後、獅子の上に載った3歳くらいの幼児2人の蝶子釣り（ちょうちん）と獅子とのじゃれ合いです。

後継者の育成として、毎年小学生の太鼓をたたく新人（数人）と経験者、高校生から20歳代までの若い人達を対象に、約5年計画で年間を通じての練習や、地元の秋まつり及び別の祭りや、イベント等の参加を通して経験を積み重ね、獅子舞の技と形態を修得してもらい、これまで同様いつまでも受け継がれ守られていくよう努めていきます。

